

昭和十三年の國際情勢 蘇 松 附 之 著 日本國際協會發行

第二十二章 バネー事件の賠償支拂

自一四一頁 八行目
至一四三頁 六行目

一九三七年十二月十二日南京政府の陳起つたバネー事件に付ては、我が方より早速陳謝の意を申入れ、米側に於てもかゝる偶發事件のため兩國々共に惡影響を及ぼすことを好まず、事件の解決を急ぎ、同月二十六日我が申入れを了承せる旨回答し來り、茲に同事件は早くも解決を見たが、尙ほ賠償金の支拂ひが滞つてゐた。

本年三月二十一日米國政府は二百二十一萬餘弗の賠償金を要求し、尙ほ右金額は財産に對する實際損害及び死傷事件に對する適當なる見償りにして、何等懲罰的損害要償額を含まざる旨を申添へて來たが、之には明細書が附いてゐなかつたので、我が方より明細書の提示方を要求し、四月九日その提示があつたので、四月二十二日我が方は要求額全部を支拂ひ、茲に同事件は全く解決を告げた。米國政府が最初の要求に明細書の添附を略したことは何の意味もなかつた如くで、米國新聞紙中には政府當局の吞氣さ

加減を勘算したものあり、一種朗かな話題を扱じたに過ぎなかつた。
我が外務省は本件解決に付き、四月二十二日左の通り發表した。

わが海軍飛行機による米艦パネー號擄沈事件に關しては、舊關中
往我の間に於ける屢次の折衝並に各面往復により、損害賠償問題を
後日に譲し、一段落を見た次第であるが、右損害賠償方に關し、在
京米國大使より三月廿一日付公文を以て、(一)本件財産損害額百
九十四萬五千六百七十ドル一セント及び(二)死者に對する賠償金額廿
六萬八千三百卅七ドル卅五セント、合計二百廿一萬四千七十七ドル卅六
セントとなることを通報して來た。よつて當省においては、關係各
省筋と協議したが、逕理の都合上前記賠償要求の内訳明瞭を要求
することとし、在京米國大使館に對し申込をなしておいたところ、
四月九日大要左の如き明細表を送付遞した。よつて帝國政府におい
ては、所算の手續を了し、四月廿二日午後五時外務省において、吉澤
アメリカ局長より、米國大使館參事官ドウマン氏に對し、前記總領
のハル國務長官宛小切手を手交し、こゝに本件は圓滿解決を見るに

至つた。

パネー號事件損害額明細表（米ドルに計上）

- 一、「財産損害」（海軍省関係）パネー號損害四十五萬五千七百廿七ドル八十セント、同機整備、軍需品など損害九萬七千七百六十六ドル四十八セント、（乗組員身廻品）四萬二百六十三ドル、合計五十九萬三千七百五十七ドル四十三セント
- 二、「郵務省関係」（郵便切手資金および補給品）七十四ドル廿七セント

セント

- 三、「國務省関係」（大使館員身廻品）六千四百ドル八十セント

- 四、「スタンダードヴァキウム石油会社関係」（千トン前後の船舶三隻及び小型船二隻の沈没及び他の二隻の損害に對する賠償其他の損害）合計百廿八萬七千九百四十二ドル

- 五、「海軍、大使館乃至スタンダードヴァキウム石油会社の職員以外の米國人十三名の私有物」五萬七千四百九十五ドル五十九セントにして、右（一）乃至（五）の全財産損害額總計百九十四萬

DEF DOC # 281

五千六百ドルセント

六、「死傷賠償額」(パネー航業組員二名及びメンビン號船長
計三名死亡並にパネー號及びその他船舶乗船者七十四名死傷に對
する賠償)總額廿六萬八千三百卅七ドル卅五セント

以上の總計二百廿一萬四千七十七ドル卅六セント

昭和十四年六月十九日印刷
昭和十四年六月二十三日發行

複	不
製	許

昭和十三年三月
日本國總務省
登記證
第九〇二號

發行所

社団法人

東京市麹町區丸ノ内二ノ十二

日本國際協會

總發行所
東京市三區一八三番
電話九ノ内四六六番

印刷所

東京市芝區南佐久間町一ノ七

印刷者

中川二郎

印刷者

赤松 啓之

DEF LOC fr 281

右ハ自分ノ面前ニ於テ署名捺印セラレタルモノナルコトヲ證明ス

同日 住所

東京都杉並區下荻原町三番地

立會人

松下 正 壽

DE F DOC # 281

証 明 書

自分ハ社団法人国際聯合研究会ノ理事長デアリマス、本會ハ元社団法人ノ日本國際協會ト稱シテ居リマシタ。別冊「昭和十三年の國際情勢」ト題スル日本文六百六十二頁ヨリ成ル印刷物ハ右日本國際協會ガ各理事ヨリ原稿ヲ交付セラレ發行シタモノニ相當アリマセン

昭和二十一年十二月三日

東京都麹町區丸の内二ノ十二
社団法人国際聯合研究会
理事長 須内 謙 介